

24年春闘勝利、安全・安心の鉄道と社会をつくろう 3・14国労西日本総行動 物価高を補えない回答に抗議！



国労西日本

国労西日本本部

NO. 355

発行責任者 植田 重信
編集責任者 大北 真也

国労西日本HP



国労西日本

検索

2000人の組合員が結集！

怒りを拳に込めて抗議！



3月14日、「24年春闘勝利、安全・安心の鉄道と社会をつくろう」3・14国労西日本総行動」を開催しました。



国労大阪会館において大和執行副委員長の開会挨拶で行なった総決起集会では、植田執行委員長の主催者挨拶、国労本部若元書記長よりの情勢報告、岡山地方本部・小林執行委員長の決意表明、米子地方本部・倉下執行委員長、北陸地方

本部・山田執行委員の決意表明、広島地方本部・佐々木執行委員長の決意表明を行いました。



JR西日本本社・貨物関西支社前では、藤野執行副委員長の開会挨拶、植田執行委員長、国労本部若元



書記長の挨拶、伊野賃金対策部長の交渉報告、荻田関西貨物協議会副議長の決意表明、近畿地方本部・山本委員長の決意表明を行ない、最後に谷澤執行委員のシユプレヒコールと団



結ガンバローで集会を終えました。結集出来なかった組合員の一筆メッセーシなども取り込まれました。

2024年3月12日

西日本旅客鉄道株式会社
代表取締役社長 長谷川 一明 殿

国鉄労働組合西日本本部
執行委員長 植田 重信

西日本会社の「期末手当5.2箇月」「ベースアップ一律4.500円」「年度末一時金なし」の回答に対する抗議

我々国労西日本本部は、安全・安心の職場と鉄道輸送を確立するために、職場で日夜懸命に奮闘している組合員・社員とその家族、グループ会社で働くすべての社員の労苦に報いるよう、期末手当6.0箇月を掲げ、今日まで交渉を行ってきた。

西日本会社は、3月12日に① 期末手当についての回答として年間総給 5.2箇月の回答、② ベースアップ一律4.500円、契約社員は時間額に120円加算、その他の手当等についての回答として、① 深夜勤務等手当の見直し、② 災害等特別出勤手当の見直し、③ 夜間看護等手当の見直し、④ 乗務員手当の見直し、⑤ 職務手当の見直し、⑥ 通勤手当の見直し、⑦ 異動一時金の新設、⑧ 利便性の高い新たな貯蓄制度の新設、⑨ 帰省等交通費の見直し、⑩ 資格取得一時金制度の見直しの回答を行なった。

この間、コロナ禍で度重なる低額回答等により社員とその家族は生活苦で先行きも不安な状態を強いられてきた。その状況から離職者も増えていたのが実態であり、改善を求めて交渉に挑んでいるのにも関わらず、交渉の中でも「原資に限りがある」という主張を繰り返す姿勢に対しては到底納得のいくものではなく抗議するものである。

西日本会社は、あらゆる大規模開発や万博などに投資を行ない、さらには内部留保として溜め込む姿勢を繰り返している。物価高騰に見合う賃上げで社員とその家族への生活改善を行なうことが企業としての社会的責務である。経営状況も回復傾向にあり上方修正しており、大幅な改善が求められていたが、西日本会社は考慮したもとは言えない低額回答等を行なった。

西日本会社は離職防止には賃上げが一番の特効薬であると認識しているにも関わらず、このような低額回答を行ない、日々業務に精励している社員は落胆でしかない。回答は、労働者の労苦に背を向けるものであり、我々は怒りを持って抗議する。

今日の経営を支えてきたのは、安全・安心な鉄道輸送をめざし、日々、奮闘している組合員・社員がいて成り立っている。JR西日本会社の体力と大企業としての社会的責務を鑑みれば、到底納得のいくものではなく、低額回答に対し満身の怒りをもって断固抗議するものである。

以上

西日本本社・貨物関西支社に向けて シュプレヒコール！！



鉄道ファンがすすめる おすすめスポット

No. 2

今回紹介するのは
「西日本エリア・木次線」

木次線、乗りに行こう！



木次線は島根県の宍道湖の南西部にある、宍道駅と芸備線後落合までを結ぶ全長81.9kmの路線である。全線単線で、非電化である当路線は、気動車が充当されています。全線を直通する列車は、1日2往復しかなくて、途中の木次駅・出雲横田駅までの区間運転列車が何本か設定されています。古くは、芸備線と共に陰陽連絡線の一端を担っており、1990年頃までは、急行「ちどり」が広島から当線を経由して松



江まで運転をしていました。しかし現在は、陰陽連絡線としての使命を果たしてはいません。1998年から観光列車として「奥出雲おろち号」が運転されています。理由により、2023年11月23日をもって惜しまれながらとうとう引退をいたしました。来年度からは観光列車として「あめつち」が運行されることとなっています。

木次線は「奥出雲おろち号」でもわかるように伝説ゆかりを大切にしており、駅名に愛称をつけたりもしています。例としては、木次駅（八岐大蛇）・日登駅（素戔嗚尊）などで、ヤマタノオロチ伝説をもとにしているのかと思われます。途中の木次駅の駅名標は



木心と表現したりしています。亀嵩駅は駅舎内に蕎麦屋が営業していることも有名ですが、松本清張の小説「砂の器」にも登場する駅としても有名な駅であります。ただし、テレビなどは事情により木次線を含めた他の駅で撮影を行なったそうです。出雲坂根駅では、有名な三段式スイッチバックのある駅です。ホームには延命水という湧水があります。出雲坂根駅と三井野原駅間の車窓として奥出雲おろちループが見下ろせる絶景が広がります。備後落合駅は山間部にあり木次線・芸備線の接続駅ですが列車



は1日数本しかなく列車が無いときは静寂が続きます。なお、芸備線も備後落合で新見方面と三次方面で系統が分割されているため、3本の列車が並ぶこともあります。ぜひ旅行に行ってみてください♪